

TSI「ピンキー&ダイアン」から新ライン「アルン」

パーティーシーンへ上質服

TSIのレディースブランド「ピンキー&ダイアン」は24年秋冬から、新ラインの「アルン」を取崩す。「私だけのかけがえのない一着」がテーマ。パーティーシーンなどオケーション対応をメインに、上質でトレンドに左右されない、長く大切に着たくなるようなジャケットやドレスなどを揃えた。

(坂入純平、永松浩介)

ブランドのシグネチャーアイテムは、ウエストをシェイプしたシルク・ウールのダブルジャケット(税込13万2000円)。ノーカラージャケット(8万8000円)、ベスト(5万5000円)、フロントのフラップポケットがポイントのスカート(5万9400円)は、セットでのスタイリングを提案する。女性らしいウエストのラインを強調するゴルフ付きのスカートもある。ダブルサテンでドレープ感のあるブラウス、サテンをレザー調に見えるように

大切に
着たく
なる
ジャ
ケツ
トや
ドレ
ス

加工したパンツなど、シンプルなシルエットのアイテムも動きのある軽やかな素材を使い、パーティーで着用できるようにした。

レースを使った女性らしいアイテムも充実した。内側にチュールを挟むことで肌触りがよく、透けすぎないようにした花柄のパンツや、胸元の大きく開いたリーフ柄のドレスなど。大ききの異なるスパンコールをあしらったスカートや、ビジュアを付けたスカートなど華やかなアイテムもある。



シルク・ウールを使ったジャケットはブランドのシグネチャーアイテム

胸元を深く開けたドレス

イメージはぶらさず新規客獲得へ

ピンキー&ダイアンは、40年ほどの歴史の中で、世のトレンドが変わってもボディーコンシャスなイメージはぶらさずきた。そのためコロナ禍でも数字は落ちなかった。顧客の比率が8割と高いのが背景にあるが、

一方で新規顧客が取れていないとも見え、新しいラインで開拓したい。

オーバーシルエットのトレンドが続いているが、レッドカーペットを歩けるような女性らしいドレスを企画しているブラン

ドは無い。インポートなど、あっても価格はそれなり。10万円から20万円のレンジで出せば、ニッチではあるが、市場を開拓させるのではと考えた。2日間の展示会でも百貨店などからの評価は悪くなかった。

価格はピンキーの一格上で、ハレの日などオケーション寄り。着用頻度は通勤服に比べると低いから、それだけに長く大切にされるような企画にした。例えば、素材は合繊というよりシルクやカシミアといった具合。

11月6日から三越銀座店本館3階で期間限定店を開き、自社ECでも販売する。既存店では六

本木ヒルズで一部扱うかもしれない。2カ月に1回ぐらいのペースで期間限定店を開き、認知を高めていきたい。

店では「エルメス」や「シャネル」のピンテージのバッグなども販売もする。じっくり育て、数年後に本体から切り離して単独展開できればいい。(岡村厚司ブランド長、川口香月ディレクター)